

報道関係者各位

2023.10  
福田美術館

## 進撃の巨匠 竹内栖鳳と弟子たち



### 生誕160年を迎える京都画壇の革命児 竹内栖鳳と彼の導いた弟子たちの快進撃に迫る

本展では、近代の京都画壇を代表する画家である竹内栖鳳および、彼に導かれてそれぞれに優れた個性を発揮した弟子たちの作品、計98点を紹介します。

「進撃」とは「競いながら前進を続ける」の意です。栖鳳と弟子たちの明治・大正・昭和を通じて続いた無双の快進撃が生み出した作品の数々が持つ力が、令和というその後の時代を生きるわたしたちにも強く訴えかける企画展です。

#### 竹内栖鳳（たけうちせいほう）1864～1942 ……

京都画壇を代表する画家。1864年、京都に生まれる。1900年、パリ万博の視察を命じられ、欧州各地を巡遊。西洋の光の描き方に感銘を受け、日本画と融合させた新たなスタイルを確立した。1937年には第1回文化勲章を受賞。また、画家だけでなく教育者としての一面もあり、上村松園をはじめ数多くの有名画家を輩出したことでも知られる。

会期：2024年1月18日（木）～4月7日（日）

前期：1月18日（木）～3月4日（月）／後期：3月6日（水）～4月7日（日）

【主催】福田美術館

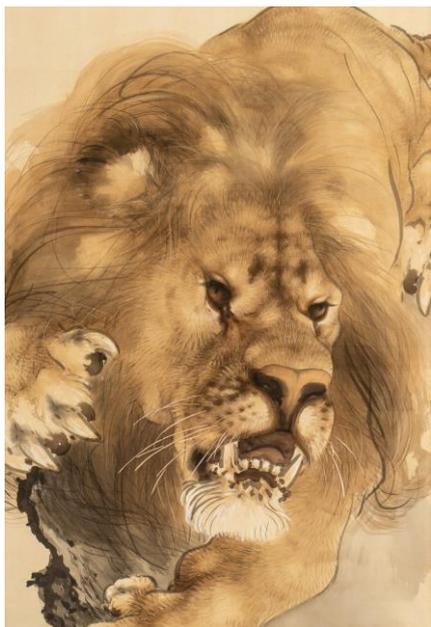
【作品点数】前期32／後期35／通期31

【後援】京都府、京都市、京都市教育委員会

合計：98点

【休館日】3月5日（火）

## 〈第1章〉竹内栖鳳の快進撃 —その力の源泉としての円山四条派—



竹内栖鳳《金獅図》部分 福田美術館蔵



竹内栖鳳《水風白鷺》部分 福田美術館蔵



竹内栖鳳《猛虎》部分 福田美術館蔵

第1章では、円山応挙以来の京都画壇の流れを紹介しつつ、先人たちの技法に工夫を加え自身の芸術を完成させた**竹内栖鳳の作品**を展示します。当時最高峰の画家であり、今もその輝きを失わない彼ならではの卓越した筆の技、構図の妙、色彩の美が、彼の作品26点を通して堪能できます。西洋の技法を取り入れて描かれたリアルな「金獅図」をはじめ、栖鳳によって描かれた動物画は見どころの1つです。栖鳳が実際にヨーロッパに渡って実物を見ながらスケッチしたことから生まれる写実性や光の表現は、戦前の京都画壇に新たな風を吹き込みました。

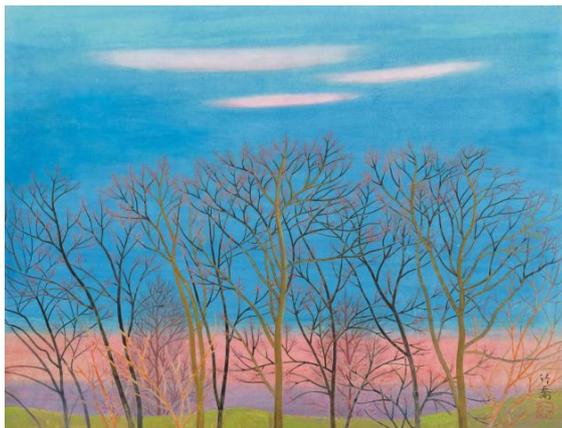
## 〈第2章〉次世代の挑戦と研鑽 —栖鳳の教えを胸に—



西山翠嶂《槿花》部分 京都市美術館蔵

第2章では、初出品となる西山翠嶂の《陽光櫻花》をはじめ、上村松園、西村五雲など、**栖鳳の背中を追った優れた弟子たちの作品**を展示します。早くから新しい日本画の描き方を模索した彼らの作品は、官展で優れた評価を受けられないという現実もありました。本章には文展の評価を不服とした小野竹喬、土田麦僊、村上華岳ら新進気鋭の日本画家により結成された**国画創作協会**の面々の作品も並びます。文展の審査員でもあった栖鳳は、彼らの作風を否定することなく、果敢な進撃を後方から支援します。彼らの個性を認め育んだ栖鳳という教育者の、秀でた影響力を問い直します。

## 〈第3章〉戦後を生きた栖鳳の門人たち —なお続く進撃—



小野竹喬《丘》福田美術館蔵

終章となる第3章では、小野竹喬、福田平八郎、池田遙邨など、戦後まで活動した栖鳳の弟子たちの作品を展示します。戦後、日本画は岩絵具の色と質感を最大限に発揮する厚塗りへと転換していきませんが、彼らはその美意識の激変を乗り越えて優れた作品を生み出し、名を馳せました。それは、師風を受け継ぐことこそが尊いという近世までの価値観を脱し、個性の追求が求められた時代に快進撃を続け半世紀に渡って創作活動を続けた巨匠、栖鳳の生き様にも重なるものでした。

### 開催概要

■ 企画展名 「進撃の巨匠 竹内栖鳳と弟子たち」

■ 会 期 2023年1月18日（木）～4月7日（日）  
<前期> 1月18日（木）～3月4日（月）  
<後期> 3月6日（水）～4月7日（日）

■ 開館時間 10:00～17:00（最終入館 16:30）

■ 休 館 3月5日（火）展示替え

■ 主 催 福田美術館  
■ 後 援 京都府 京都市 京都市教育委員会

■ アクセス 〒616-8385 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16  
JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩12分  
阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩11分  
嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩4分

■ 料 金

一般・大学生	高校生	小・中学生	その他
1,500(1,400)円	900(800)円	500(400)円	* 障がい者と介添人1名まで各900(800)円 * 幼児無料 * ( ) 内は20名以上の団体料金

<嵯峨嵐山文華館両館共通券>

一般・大学生：2,300円／高校生：1,300円／小中学生：750円／障がい者と介添人1名まで：各1,300円

### プレスリリース／広報用画像／ご取材に関するお問合せ

「福田美術館」広報事務局（共同ピーアール内）  
担当：田中、樋口、神（じん）  
TEL：03-6264-2045  
Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp

<一般の方からのお問い合わせ>

TEL：075-863-0606（代表）  
Email：info@fukuda-art-museum.jp

## プレス用画像

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/seihou/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



①竹内栖鳳《金獅図》福田美術館蔵 通期



②竹内栖鳳《猛虎》福田美術館蔵 前期



④竹内栖鳳《魚菜一荷》福田美術館蔵 後期



③竹内栖鳳《春の海》福田美術館蔵 通期

## プレス用画像

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/seihou/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



⑤竹内栖鳳《水風白鷺》  
福田美術館蔵 通期



⑥入江波光《散華来迎》  
福田美術館蔵 前期



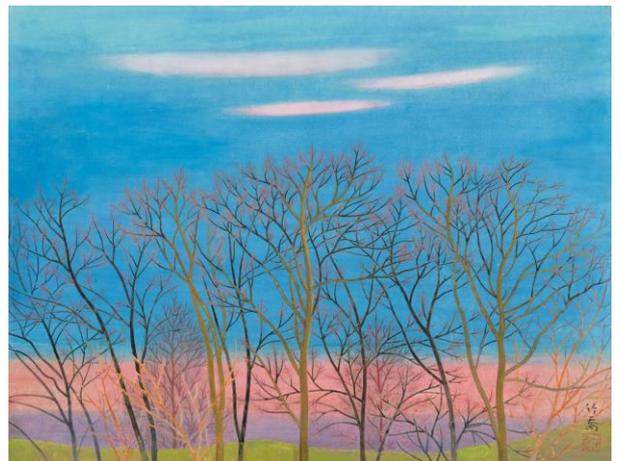
⑦西村五雲《小原女》福田美術館蔵 後期



※トリミング不可  
⑧西山翠嶂《槿花》  
京都市美術館蔵 前期



⑨上村松園《しぐれ》福田美術館蔵 前期



⑩小野竹喬《丘》福田美術館蔵 後期

## 福田美術館について

### 美しい自然と日本美術の融和。日本文化の新たな発信拠点として

京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。福田美術館は「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐ美術館を目指します。

オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてきたことに対し、地元の方々のご支援とこの地に恩返しをしたいという思いから、2019年10月、美術館の設立に至りました。今や日本国内だけでなく、世界中から多くの人々が訪れる観光地である嵐山。その中でも渡月橋を望む大堰川（桂川）沿いの景勝地に位置し、四季折々でそれぞれに変化する風景は1000年変わらず人々を魅了してきました。この美しい自然とともに日本美術の名品を愉しんでいただくことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。



### 嵐山にふさわしい、未来へむけた日本建築の形

福田美術館の建築を手掛けた安田幸一氏は、「蔵」をイメージした展示室や外の自然とのつながりを感じられる「縁側」のような廊下など、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これから100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を目指しました。また、庭には大堰川に連なる水鏡のごとく嵐山を映し出す水盤が設けられており、渡月橋が最も美しく一望できるカフェからは最高の眺めを味わうことができます。

